

市の除排雪の取り組みに理解が深まる!

除排雪作業体験 (ゆきだるマン雪像製作)

学年・単元 4年:[社会科]第7単元「くらしを守る」→小単元3「雪とくらす」

学習効果
UP
ポイント

- 様々な人の立場で考えよう!という視点があると、力を合わせることの重要性に気付く!
- 単元のまとめとして利用すると、自分たちは何ができるかという思考に結びつけやすい!
- 子どもたちの「大変」などの素直なつぶやきを拾い、実感の伴った学びに!



1 背景と取組のねらい

ひと冬で6mもの降雪のある札幌で、市民生活や交通機能を維持するためには、市によるかき分け除雪と市民による間口除雪の両方が適切に行われる必要がある。そのためには市民一人ひとりがこれを理解し、活動する環境をつくっていく必要があり、小さい頃からの意識付けが有効と考えられる。



- ① 札幌市の除排雪体制を想定した作業体験を行うことで、札幌市の雪対策への理解を深める
- ② 作業の大変さを経験し、除雪をしてきている親や除雪作業員に感謝の気持ちを持つとともに、各家庭の間口除雪は自分たちで行うという意識付けにつなげる
- ③ ゆきだるマンを製作し、ゆきだるマンプロジェクトに投稿することで、雪対策室HPを閲覧することとなり、札幌市の雪対策に関心を持つきっかけづくりにする

2 実施内容

(1) 準備するもの

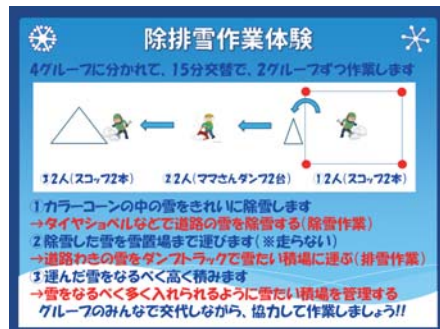
- ・1グループ(15人程度)あたり、小さめのスコップ4本とママさんダンプ2台を用意する。
- ・除雪範囲を示すカラーコーンやカラーズプレー、ゆきだるマン製作に必要なもの(顔やボタン、マントなどの材料)も準備する。
- ・ある程度の積雪が必要となるので、事前に実施場所の確保が必要となる。



スコップとママさんダンプ

必要備品は除雪道具等のみ!

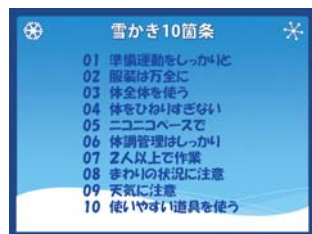
コスト0円! 学校側のみでも実施可!



説明資料 (除排雪作業体験)



説明資料 (ゆきだるマン製作)



雪かき10箇条 (ウインターライフ推進協議会HPより)

(2) 実施の流れ

事前

- ・出前授業の最後に体験内容を説明する。
- ・15人程度を1グループとしてグループ分けをする。

実施

- ・現地で場所やルールを確認し、軽く準備運動してから開始する。

15分交代



除排雪作業体験 ↔ ゆきだるマン製作



除排雪作業体験

- ・1グループで1度に作業するのは、除雪2人、排雪2人、雪堆積場2人のみで、適宜交代しながら15分間作業する。
 - ① 除雪班がカラーコーンの中の雪をきれいに除雪
 - ② それを排雪班が堆積場まで運ぶ
 - ③ 堆積場班が雪山をなるべく高く積み上げる。
- ※先生には交代を促す声掛けをお願いし、全員がまんべんなく作業できるように誘導してもらう。



授業風景 (除排雪作業体験)

みんなで競争しよう!

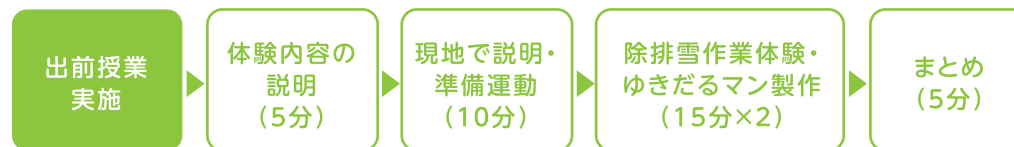
ゆきだるマン製作

- ・残りのグループはそれぞれでゆきだるマン製作を行う。
 - ・完成後、写真撮影。
 - ・ゆきだるマンプロジェクトに応募。
- ※授業時間内で完成しなければ、休み時間や放課後も作業に当てる。



授業風景 (ゆきだるマン製作)

● 時間配分: 50分(参考)



目的

- 家の除雪を手伝うようになる。
- 雪かき汗かきチャレンジに参加する。

● 楽しみながらも苦労を実感してもらう。

以上の意識変化を与えることによって、間口除雪は家庭で行うという意識付けを行う。また、札幌市の除排雪体制との関連性も理解してもらう。

ポイント

- 屋外での実施のため、天候に左右されるので、予備日の設定または、別の体験授業に振り替えるなどの対応が必要となる場合がある。
- 授業実施のためには、ある程度の積雪が必要になる。(理想の実施時期: 1月~2月) ※学校側の授業カリキュラムと要調整。